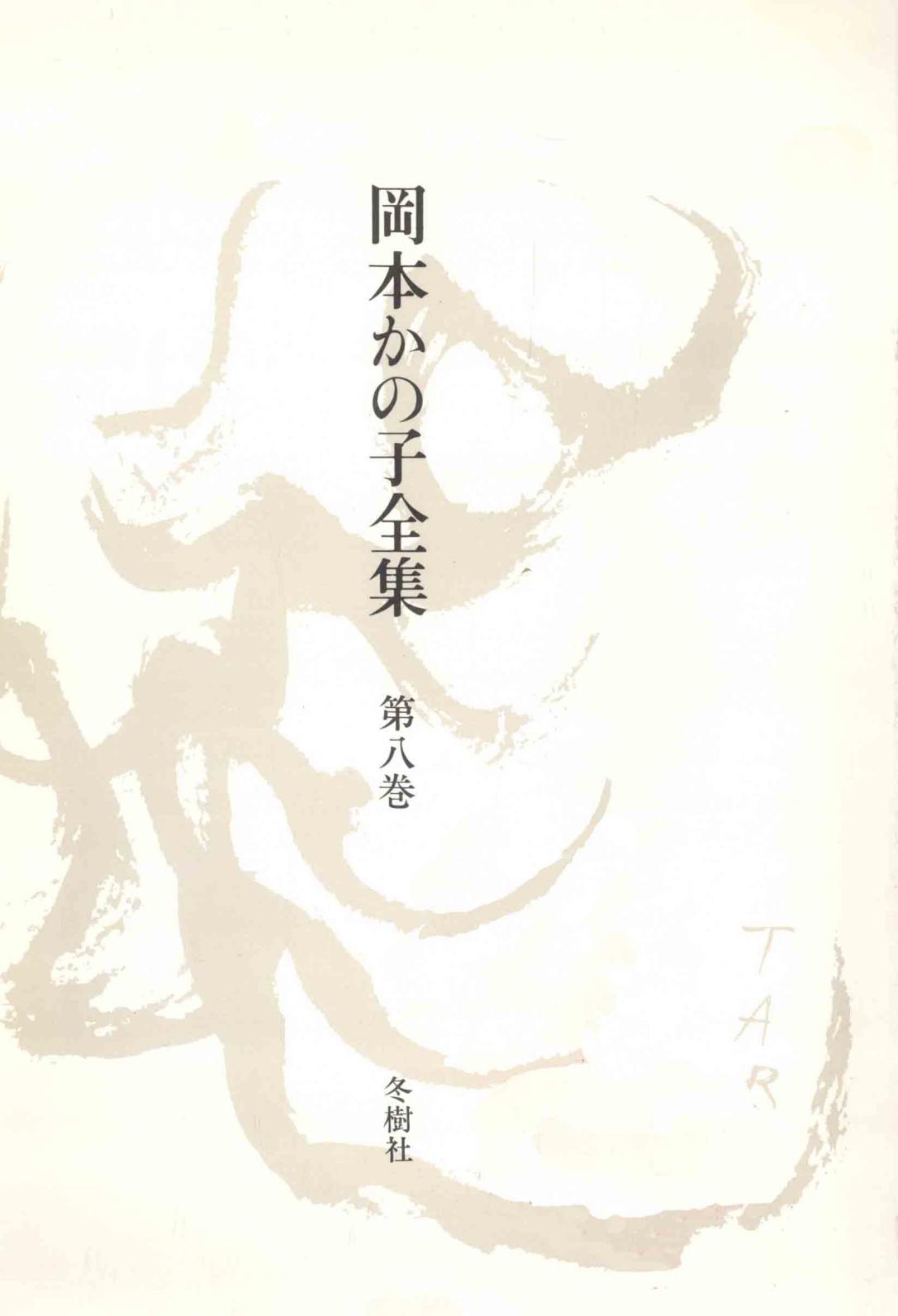




岡本かの子全集

第八卷





# 岡本かの子全集

第八卷

冬樹社

TAR

# TARO

岡本かの子全集 第八卷

昭和五一年四月一五日初版第一刷發行

著者 岡本かの子

發行者 高橋直良

發行所 多樹社

東京都千代田區神田神保町二一一八

電話東京二六四一〇三四六

振替東京七七五七

印刷所 株式會社大洋社

製本所 有限會社三和製本所

製函所 株式會社光陽紙器製作所

本文用紙抄造 王子製紙春日井工場

表紙用クロス 日本クロス株式會社

裝幀 岡本太郎  
絵折久美子

第八卷 目次

かろきねたみ	三
女なればか	四
かろきねたみ	五
衿の衿	五
暗の手ざはり	六
舊作のうちより	七
いばらの芽	八
むなおしろい	九
淡黄の糸	九
ひるの湯の底	九

みづのこころ

10

「かるきねたみ」拾遺

「汲 泉」歌

三

「明 星」歌

三

「スバル」歌

三

愛のなやみ

上 卷

初 秋

三

さつきやみ

四

月 見 草

四

化粧疲れ

四

愛のなやみ

四

さつき晴れ

四

黄 水 仙

四

傷ける實	五
廢驛の雨	五
薄氷	五
去れる老婢	五
廁にてうたへる	五
君しあらねば	五
紀の國の繭	五
仔犬の死	五
人の死に	五
眼をやみて	五
小さき盲女	五
こがらし	五
針の手	五
越路の狂女	五

みぞれ  
春さむし  
遠鶯  
春愁  
あさみどり  
人より珠數をうけて  
かへり来て  
信濃路  
病める旅にて  
下卷  
夜半  
哀悼  
木枕  
畫の月

冬のこころ

女のなげき

暮 春

ころもがへ

芍 薬

君 性

ふる さと

かゝるゑにし

灯を細めて

なげき

「愛のなやみ」拾遺

「青 鞏」歌

そ の 他

浴 身

靜物篇.....[113]

櫻.....[113]

初夏の花.....[113]

曇天のけし.....[113]

恐怖と紅薔薇.....[113]

野薔薇種々相.....[113]

とかげ.....[113]

玲 炎.....[113]

汗 珊々.....[113]

夏日小景.....[113]

伊豆山.....[113]

大震.....[113]

逃れ來りて.....[113]

わが東京.....[113]

海、山、川	五
だりあ	五
かなしき命	五
晚秋初冬	五
おどり子猿	五
御成婚奉祝の歌	五
冬日小景	五
感傷篇	五
中耳炎嘆吟	五
旅途より籠居へ	五
白玉椿	六
死魚その他	六
さざらぎの海	六
夕富士	六

寒宵癖語

[三]

新居雑感

[四]

春の船出

[五]

さつき

[六]

「浴身」拾遺

[七]

「水甕」歌

[八]

「青煙集」歌

[九]

その他

[一〇]

わが最終歌集

[一一]

秋

[一二]

曼珠沙華

[一三]

めをと

[一四]

大正新脩大藏經讚歌

[一五]

球場感詠

[一六]

知らぬ街

〔四三〕

ちかひ

〔四三〕

年頭歌

〔四四〕

昭和四年

〔四五〕

春の歌・冬の歌

〔四六〕

静けき春

〔四七〕

悼九條夫人

〔四八〕

このよき年

〔四九〕

雪

〔五〇〕

白梅その他

〔五一〕

夜半・あした

〔五一〕

つばき

〔五二〕

しきしん五景

〔五三〕

あさらぎの夜

〔五四〕

しきしん五景(一).....

〔四〕

ふくらむ山川.....

〔四〕

わが里の雪。櫻.....

〔四〕

子の言葉.....

〔四〕

ふぢ七景.....

〔四〕

移花兼蝶集.....

〔四〕

春.....

〔四〕

春日其他.....

〔四〕

春日抄.....

〔四〕

丸の内の風景.....

〔四〕

このごろの歌.....

〔四〕

今年の花.....

〔四〕

都市に・山麓に.....

〔四〕

朝に夜に.....

〔四〕

澄心集

〔K〕

しら梅その他(丁)

〔K〕

近郊夜景

〔K〕

ぱぶら

〔K〕

海に添ふ國

〔K〕

夕浪

〔K〕

竹葉集

〔K〕

舊居に別れんとして

〔K〕

星空

〔K〕

今日は今日とし

〔K〕

夏すゞし

〔K〕

夜空

〔K〕

朝空

〔K〕

遊船行

〔K〕

天變悲譜

[七]

夏長けて

[五]

秋の炎天

[五]

濁清共流

[五]

黑白相隣

[五]

穢心淨土

[五]

海邊にて

[五]

秀峯夢

[五]

獨居吟

[五]

初秋行旅

[五]

秋

[五]

初秋風景

[五]

白菊抄

[三]

するが野

[五]

明治神宮祭の煙火	二四
晚秋詠草	二五
參禪の歌	二六
秋冬のころ	二七
街 路 樹	二八
臘月八月の曉	二九
冬	三〇
このごろ	三一
舞ひつつ	三二
夜鳥曉雲	三三
春近づく	三四
明治神宮	三四
春 の 命	五六
春のつまさか	五七

かゞやく笛山	二九七
悼九條武子夫人	二九八
みかどは病ます	二九九
冬 川	三〇〇
山に獲りし小鳥を囁みつつ	三〇一
舊作 より	三〇一
うつり来て	三〇一
元 朝	三〇一
公園にて	三〇一
春の爐ばた	三〇一
帝國議會	三〇一
高輪九首	三〇一
淺草六區	三〇一
佃島月嶋	三〇一